

児童書の購入や子供向けイベントによる 子供の読書推進

取組のねらい

・若年層の読書推進 ・子供たちの英語教育への活用

取組の主体

関市教育委員会

取組の沿革・概要

2018年2月に、関市では電子図書館を開始しました。若者がもっと読書に親しめる環境を作るためにも、図書館になかなか来られない人たちのためにも、電子図書館が役立つと考え、導入を決めました。電子書籍のサービスは、子供たちの英語教育に生かせるようなサービスを選びました。図書館カードとは別に、電子図書館用のIDとパスワードを発行することで、電子図書館が利用できます。図書館にはWi-Fiが通っていて、館外・館内ともに貸出可能です。



取組の具体的内容

電子書籍の導入時の蔵書数は89冊でしたが、2020年12月現在、蔵書は5000冊を超えています。新しく購入する図書は、司書が利用状況を見ながらその都度購入をしています。最近では講談社の児童向け小説である青い鳥文庫の人気の本を入れたことで、子供の利用が伸びました。

図書館では、本の貸出のほかに電子書籍関連のイベントも行っています。親子向けには、英語の絵本を日英両言語で読み聞かせを行いました。電子書籍に収録された英語の読み上げに続き、司書が日本語で読むという取組です。また、図書館で行われた地域のイベントで電子書籍体験コーナーを設けたところ、子供たちが電子書籍を楽しそうに操作している様子が見られました。その日のうちに電子書籍の登録をしてくれた人も多く、イベントの効果を感じています。

取組の成果と今後の展望

子供たちに人気の本を購入したり、イベントを行うことで、子供たちの電子書籍の利用が増えるという実感があります。館内で使えるタブレットが10台ほど置いてあります。今後は、子供たちが来た時にいつでも貸し出したり、操作の体験ができるようにしたいと思っています。将来的に、子供たちが1人1台タブレットを持った時に、新しい電子書籍の情報交換をしてもらえるような日が来るよう、図書館として読書推進の工夫をしていきたいと思っています。

POINT

●学校電子図書館サービス

関市では、学校と連携して「学校電子図書館」というサービスも行っています。関市内の小中学校の各学年に1つずつIDを配布し、朝の読書活動や読み聞かせ等の活動で電子書籍を活用してもらっています。まだ蔵書数は少ないですが、今後授業等でも電子書籍を活用してもらえたらと考えています。

工夫

●人気本の購入

関市では、司書が電子書籍の利用状況を検証しながら、電子書籍の追加購入をしています。時代小説が人気であれば時代小説を増やし、季節の料理本が人気であれば冬には鍋の特集を組んでみようといった具合です。同様に、人気の児童書も入れたことで子供の利用率が高まっています。

子供向けの読書イベントの開催

取組のねらい ・時代に即した市民サービスの提供 ・若年層への読書推進

取組の主体 大阪市

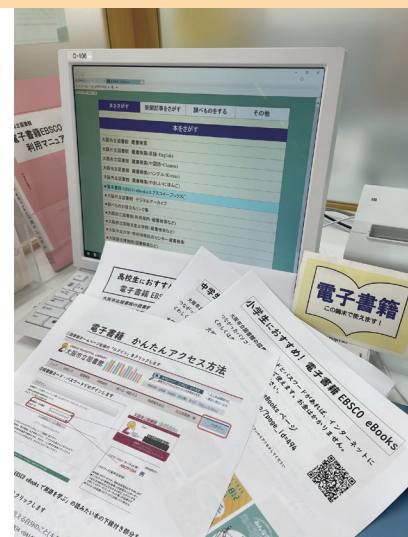
取組の沿革・概要

2007年～2010年にかけて「知識創造型図書館改革」の取組の一環として、大阪市立図書館は、2012年に電子書籍のシステムを導入しました。電子書籍サービスの契約時は3つのサービスを比較検討し、知識創造型の図書館として最もコンセプトが合致するサービスを選びました。当初はまだ電子書籍が浸透しておらず、利用者の方の端末はPCがメインでした。導入時にはNHKのニュースや雑誌『関西ウォーカー』等にも取り上げていただくなど、非常に多くの方に興味をもってもらいました。

取組の具体的内容

大阪市立図書館では、子供向けの取組の一つとして、クイズを通して電子図書館の機能を知ってもらうイベントや、小中学生を対象とした電子図書館の活用講座を年に100回近く実施しています。

市内の学校と連携しながら、電子書籍を活用した子供の英語学習を推進する取組も同時に行っています。図書館の職員が学校に出向いたり、図書館で開催する講座に参加してもらい、ネイティブの音読や大画面に本を映す機能など、電子書籍ならではの機能を児童や生徒、教職員にPRしています。以前、英語科のある市内の高校で、電子書籍を紹介したところ、その日のうちに来館して利用登録をしてくれた生徒が何人もいました。その後も電子書籍関連の講座を続けた結果、夏休みなどに英語学習を目的として電子書籍を利用してくれる生徒が増えています。



取組の成果と今後の展望

小中学生向けの電子書籍の活用講座では、子供たちが端末を楽しみながら使っている様子が見られます。ただ、ふだんから来館していても、電子書籍の実際の利用につなげるためには、どのようなコンテンツがあるか、どのように操作するかきめこまかな説明が必要だと感じています。紙の本と同じように、電子書籍でもティーンズ向けのコーナーを設けたり、人気本のランキングやおすすめ本リストをポスターで貼り出すなどの工夫をし、今後も子供たちの読書に繋がる取組を積極的にやっていきたいと思えます。

POINT

●積極的な子供向け読書イベント

大阪市立図書館では、子供の読書推進に向けたイベントを積極的に実施しています。電子書籍を用いたクイズや講座だけでなく、子供が漫才コンビを組んで本を紹介する「書評漫才」という大阪ならではの取組も行っています。

工夫

●電子書籍を活用した英語学習の推進

電子書籍にはネイティブの音読機能など、英語学習に活かせる機能があります。大阪市教職員用ポータルサイトに電子書籍のお知らせを掲載したり、職場体験等の場を利用して直接説明を行うなどの取組を進めて、子供たちの学習において電子書籍という選択肢が身近になってほしいと思えます。

まとめ（電子書籍活用のポイント）

事例から、電子書籍を活用した子供の読書活動推進のためのポイントをご紹介します。

電子書籍を「作る」「触る」「体験する」

電子書籍の貸出だけでなく、図書館内のタブレットの設置や、地域のイベントで電子書籍が体験できるコーナーを設けるなど、子供たちが電子書籍にいつでも触れられる環境を整えることで、子供たちの電子書籍への興味・関心を引き出しています。

学校でも、「GIGA スクール構想」により、電子書籍を活用する流れが進んでおり、今後、児童・生徒にタブレット端末が普及することにより、児童・生徒が電子書籍に触れたり、体験する機会が増加することが考えられます。

また、オリジナルの電子書籍を作るイベントなどを行う事例も見られました。

公立図書館と学校の連携

公立図書館と学校が連携し、いつでも子供たちが電子書籍に触れられる環境を整え、電子書籍の普及を進めた例もあります。

例えば、「市内小中学校の学校図書カードで電子図書館の利用ができるようシステムを改修」「図書館の職員が学校を訪問し、電子書籍の使い方についてレクチャーを行う」などの取組があげられます。

電子書籍に簡単にアクセスできるような工夫

図書館の開館時間を問わずに、電子書籍にアクセスできるように、例えば、自治体のシステムから電子図書館の ID 申請ができるようにしている例もあります。

コンテンツ不足問題への対応

アンケートでも課題になっていたコンテンツ不足問題については、絵が動く電子絵本や、英語の読み上げ機能のある洋書など、電子書籍ならではの機能がある蔵書を充実させて対応している事例が見られます。

予算不足問題への対応

電子書籍の導入を予定する自治体にとって特に大きな課題である予算不足の問題については、コロナ関係の交付金や、その他の助成金に積極的に応募して電子書籍の運営費に充てた事例が見られました。

【座長】

秋田 喜代美 東京大学大学院教育学研究科 教授

【委員】

有山 裕美子 工学院大学附属中学校・高等学校 司書教諭

稲垣 和雄 綾瀬市立図書館 館長

島 弘 日本図書館協会 児童青少年委員会 委員長

竹村 和子 全国学校図書館協議会 常務理事

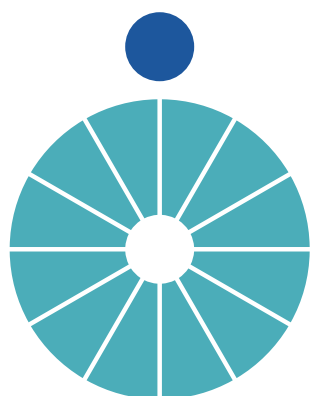
野口 武悟 専修大学文学部 教授

(敬称略、五十音順)

令和2年度 文部科学省委託調査
子供の読書活動の推進等に関する調査研究
(委託先:株式会社リベルタス・コンサルティング)

.....

文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課
〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2
電話 (03)5253-4111(代表)



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN